

第八十一回
帝國議會
貴族院

郵便年金法中改正法律案特別委員會會議事速記録第二一號

昭和十八年二月二日(火曜日)午後一時三十八分開會

○委員長(子爵秋元春朝君) 是ヨリ開會致シマス、先ヅ此ノ前申上ゲマシタ通りニ逕信省關係ノ法律案郵便年金法中改正法律案、航空法中改正法律案、船舶保險法案此ノ三案ノ提案理由ニ付テ大臣ヨリ御説明ヲ煩ハシタイト思ヒマス

○國務大臣(寺島健君) ソレデハ只今本委員會ニ付セラレマシタ三法律案ニ付キマシテ其ノ提案ノ要旨ヲ御説明申上ゲマス、先ヅ郵便年金法中改正法律案ニ付テ申上ゲマス、郵便年金法中改正法律案ノ提出理由ニ付キマシテハ、本會議ニ於テ申述ベマシタガ、茲ニ少シク補足シテ申上ゲタイト思ヒマス、本案ハ現下ノ我が國經濟事情ニ鑑ミマシテ、最モ緊要デアリマスル長期貯蓄ノ増強ニ資スルト共ニ、國民厚生施設タル郵便年金制度ノ機能ヲ遺憾ナク發揮セシムルヲ主眼ト致シ、郵便年金ノ最高制限額二千四百圓ヲ五割増ノ三千六百圓ニ引上ゲサムトスルモノデアリマス、郵便年金事業ハ大正十五年國民厚生施設トシテ創始セラレテ、以來順調ナル發達ヲ遂ゲテ參タノデアリマスガ、殊ニ支那事變後ニ於キマシテ業績ハ飛躍的ナル向上ヲ示シテ居リマス、即チ昨年十一月末現在ト致シマシテ契約總件數ハ百九萬五千件、年金額ハ一億三千三百三十八萬圓、又積立金ハ本年度ノ餘裕金ヲ含メマシテ六億六千四百七十七萬圓ニ達スル成績ヲ收メテ居リマシテ、加ふる生活保護

ハ勿論、國家經濟ニ對シテカカラザル寄與ヲ致シツ、アルノデアリマス、然ルニ現在ノ年金最高制限額二千四百圓ハ事業創始當時制定セラレタル儘今日ニ及ンデ居リマスガ、其ノ間我が國ノ經濟事情ハ變遷致シマシテ、今日ニ於キマシテ此ノ二千四百圓ト云フ最高制限額デハ、國民生活ノ安定ヲ目的トスル本制度ノ機能ヲ十分ニ發揮スルヲ得ナイ狀態ニ立チ至ツテ居リマス、即チ物價指數等ヲ見マスルモ、事業創始當時タル大正十五年ニ比シテ著シク昂騰ヲ示シテ居リ、又最近ニ於キマシテ高額年金ノ契約ヲ爲スモノガ、既ニ増加シツ、アルト云フ實情カラ見マスルモ、國民ノ將來ノ生活安定ヲ圖ル上ニハ、現在ノ制限額ハ稍、低キニ失スル嫌ヒガアルノデアリマス、加之郵便年金ハ比較的多額ノ掛金ヲ以テ極メテ長期ニ互ル契約ヲ爲スモノデアリマシテ、所謂購買力ヲ長期固定資金化スル上ニ最モ優レタル機能ヲ有スルノデアリマス、幸ニ今回ノ改正ガ實現致シマスレバ、之ニ依ッテ本制度ノ機能ヲ益、昂揚セシメルト共ニ、戰時財政經濟ノ運営ニモ多大ノ寄與ヲ爲シ得ルモノト確信致シテ居ル次第デアリマス、次ニ航空法中改正法律案ノ要旨ニ付テ申上ゲマス、航空法中改正法律案ノ提出理由ニ付キマシテモ本會議ニ於テ申述ベマシタガ、茲ニ補足シテ本案ノ要旨ニ付キマシテ御説明申シタイト存ジマス、御承知ノ如ク航空機ハ最モ進歩シタル高速度交通機關トシテ高度ノ文化的、經濟的機能ヲ有スルト共ニ、一朝事アル場合ニ空軍豫備軍トシテモ特殊ノ使命

ヲ有スルモノデアリマシテ、殊ニ大東亞建設戰下、我が航空力ノ飛躍的増強發展ヲ圖ルコトノ喫緊ノ要事タルコトハ申上ゲル迄モナイ所デアリマス、然ルニ其ノ準繩トモ申スベキ現行航空法ハ、第一次歐洲大戰直後ノ大正八年、「パリ」ニ於テ締結セラレマシタル「航空法規ニ關スル條約」ヲ基準トシテ大正十年ニ制定セラレタルモノデアリマシテ、必ズシモ今日ノ航空界ノ實情ニ即應シ難イ點モアルノデアリマス、仍テ是等ノ點ニ付本案ハ必要ナル改正ヲ加ヘマシテ、航空機職員ニ關スル規定、飛行場特別地域ニ關スル規定及ビ航空機使用事業ニ關スル規定ノ整備ヲ圖ラムト致シタ次第デアリマス、即チ航空機ノ性能ノ向上、特ニ其ノ大型化、輸送距離及ビ輸送量ノ増大等ノ趨勢ニ鑑ミマシテ、從來乘員トシテ取扱ハレテ居リマシタ航空機操縦士、航空士及ビ航空機關士ノ外ニ、新ニ航空機運航ヲ指揮スル責任者タル航空機長及ビ航空ノ安全保持上重大ナル使命ヲ有スル航空通信士及ビ航空機整備士等ヲ加ヘマシテ、之ヲ航空機職員トシ、法律上其ノ資格及ビ地位ヲ明定シマシテ、以テ航空機運航能率ノ増進並ニ航空事故防止ヲ期スルコトト致シタノデアリマス、飛行場周圍ノ特別地域ニ關シマシテハ、航空機ノ大型化及ビ高速化並ニ盲目著陸施設ノ發達等ニ順應致シマシテ、現在ノ「メートル」ノ限界ヲ、安全保持上特別ノ必要アル場合ニ於テハ二千「メートル」迄擴張指定シ得ル如ク改正致シマス同時ニ、從來公共用飛行場及ビ軍

用飛行場ノミニ適用ヲ認メラレテ居リマシタ特別地域ヲ、乘員養成所附屬ノ訓練用飛行場及ビ航空機製造會社附屬ノ試驗用飛行場ニモ、必要ニ應ジ適用セラレ得ルヤウ改メムトスル次第デアリマス、航空機使用事業ニ關シマシテハ、從來航空機ヲ使用シテ營業事業ノ中、運送營業ニ關シテノミ之ヲ許可制トスル規定ガ存シテ居ルノデアリマスガ、航空ノ發達ニ伴ヒマシテ、運送事業ノ外ニ航空寫眞、測量事業及ビ魚群探見事業等、航空機ヲ使用シテ營業事業ガ出現致シテ居リマスノデ、是等ノ事業ヲ航空主管廳ノ監督下ニ置イテ、國防上及ビ航空保安上必要ナル取締ヲ勵行致シマスト共ニ、其ノ堅實ナル發達ヲ助長スル必要ガアリマスノデ、一般ニ航空機ヲ使用シテ營業事業ヲ許可制ノ下ニ置カムトスルモノデアリマス、最後ニ船舶保險法案ニ付テ申上ゲマス、本案ノ提出理由モ本會議ニ於テ申述ベマシタガ、更ニ本案ノ要旨ニ付キマシテ今少シ詳細ニ御説明致シタイト存ジマス、大東亞戰爭勃發以來海運ノ擔フ使命ハ愈々重キヲ加ヘマシテ、今や海上輸送力ノ如何ガ戰局ヲ左右スルト申シマシテモ敢テ過言デハナイノデアリマス、之ガ爲政府ニ於キマシテハ船腹ノ擴充ト、運航能率ノ向上ニ全力ヲ傾倒致シテ參ツタノデアリマシテ、即チ船腹ノ擴充ニ付キマシテハ、外國船ノ購備入、拿捕船ノ利用、沈沒船ノ引揚利用等ノ施策ハ固ヨリ、極力新船建造ノ促進ヲ圖リ、又運航能率ノ向上ニ付キマシテハ港灣荷役力ノ増強、機帆船ノ計畫輸送、海陸輸送ノ調

整、船舶滿載吃水線ノ引上げ、検査期間ノ延長等ヲユル方途ヲ講ジテ、只管輸送力ノ増強ニ努メテ參タノデアリマスガ、戦局ノ進展ニ伴ヒマシテ、作戰上ヨリモ、將又生産力増強上ヨリモ、船舶ノ必要性ガ愈々痛切ニ要望セラル、ニ至リマシタノデ、之ニ應フル爲ニハ、造船方面ニ於テハ、鋼船ノ建造ト併セテ木船ノ大量建造ヲ促進スルト共ニ、運航方面ニ於テハ鋼船積、物資ヲ可及の木船積ニ振替ヘル必要ヲ生ジ、木船建造ノ促進並ニ木船海運業ノ振興ハ、現下喫緊ノ要務トナツテ參タノデアリマス、元來海上保險制度ハ、平時ニ於キマシテモ海運ノ經營ト密接不可分ノ關係ニアリマシテ、海上保險制度ノ適否ハ直チニ船舶ノ運航、延テハ船舶ノ建造ニ重大ナ影響ヲ與ヘルモノデアリマス、然ルニ木船ヲ目的トスル我が國海上保險制度ノ現状ハ極メテ不備デアリマシテ、保險金額ハ保險價格ノ六割五分以内ニ、又填補範圍ハ全損及救助費ニ限定セテ、而モ保險料率ハ鋼船ニ比シ遙カニ高率デアリマスル爲、保險ヲ附ケテ居ルモノハ頗ル少イ實情デアリマス、此ノ狀態ニ於キマシテ、政府ノ意圖スル木船ノ計畫配船及木船ノ大量建造ニ重大ナル障礙ヲ及ス虞ガアルノデアリマス、本案ハ斯カル障礙ヲ免除シ、以テ木船運航上ノ不安ヲ除去シ、木船建造ヲ益々活潑ナラシメムトスル趣旨ニ基クモノデアリマス、本案ニ依ル保險制度ノ概要ハ、第一ニ經營形態デアリマスガ、本制度ガ強制保險ナル關係上、保險會社ヲシテ經營セシムルヲ不適當トスルノミナラズ、木船ノ如ク全國各地ニ分散シ、地方の運航ニ從事スル特殊ナモノニアリマシテハ、海上危險ニ付相互ニ監視セシム

ルヲ得策トシ、又海運組合法ニ依ル機帆船海運組合ノ如キ既存ノ統制團體ヲ極力利用スルコトヲ最モ適當ト致シマスノデ、木船保險事業ノ經營ハ、木船ノ船主ノ相互保險組合ヲシテ行ハシメムトスルデアリマス、此ノ保險組合ハ内外地ヲ通ジテ一箇ト致シマスガ、是ハ元來保險制度ガ大數計算ニ依リ危險ノ分散ヲ圖ルコトニ基クモノデアアル點カラモ、適當ノコトト考ヘルデアリマス、尙此ノ組合ハ極メテ公法的色彩ノ濃厚ナルモノタラシメ、政府ノ強力ナル監督ニ服セシメマスト共ニ、之ニ公法の權限ヲ與ヘ、且政府ニ於テ組合ノ事務費ノ一部ヲ補助シ、免稅ノ特典ヲモ與ヘルコトト致シテ居ルノデアリマス、第二ニ、保險ノ目的ハ、船舶法ニ依ル登録ノ關係上、原則トシテ總「トン」數二十「トン」以上ノ木船ト致シマシタガ、此ノ外必要ナル木船ハ、主務大臣ノ指定ニ依リ保險ノ目的タルコトヲ得ルヤウニ致ス考デアリマス、而シテ是等保險ノ目的ノ中、一定「トン」數以上ノ船舶ハ普通保險ノ付保ヲ強制スル豫定デアリマス、差當リ機帆船統制ノ現狀ニ鑑ミ、總「トン」數七十「トン」以上ノモノニ付保ヲ強制ヲ實施スル所存デアリマス、第三ニ付保金額ハ保險價額ノ全部ト致シマス、填補範圍ハ、現在保險會社ニ於テ行ツテ居リマスモノハ全損及ビ救助費ニ限ラレテ居リマスノヲ、擴張シテ、全損、分損、救助費、共同海損及ビ衝突賠償ニモ及シ、船主ノ保護ヲ厚クシ、安シジテ計畫輸送ニ從事セシムルヤウニ致シタイト考ヘテ居リマス、保險料率ハ船種、船齡、航行區域等ニ依リ多少ノ高低アルハ免レマセスガ、政府ニ於テ組合事務費ノ約半額ヲ補助スル見込デアリマシテ、可及的低廉ナル適

正料率ヲ設定スル所存デアリマス、最後ノ再保險デアリマスガ、普通保險ニアリマシテハ組合ノ引受ケタル元受保險金額ノ九割、戰爭保險ニアリマシテハ、元受保險金額ノ全部ニ付、國營再保險ヲ行ハムトスルノデアリマス、何卒右ノ三案御審議ノ上、速カニ御協賛アラムコトヲ切望致シマスル次第デアリマス

○委員長(子爵秋元春朝君) 質疑應答ニ入リマス前ニ、チヨット皆サンニ御諮リヲ致シタイコトガアリマス、戰爭ノ情勢ガ非常ニ、昨年カラズツト變化致シテ居リマシテ、從ツテ通信省關係ノ事項、又施設ニ付キマシテモ、餘程變化ガアルダラウト存ジマスノデ、現時ノ情勢ニ付キマシテ、大臣ヨリ一通リノコトヲ承ツテ置イテスレバ、此ノ三案ヲ審議致シマスニ付キマシテモ、其ノ促進ハ勿論ノコト、色々便宜ガアラウカト思ヒマスガ、此ノ際其ノ御説明ヲ承ルト云フコトニ、御異議ハゴザイマスマイカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○委員長(子爵秋元春朝君) 御異議ナシト認メマシテ、左様取計ラヒマス、而シテ多少軍事ニ關スルコトモアリマセウカラ、此ノ際秘密會ニ致シマシテ、之ヲ伺フコトニ致シタイト思ヒマスガ、御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○委員長(子爵秋元春朝君) ソレデハ是ヨリ秘密會ニ移リタイト思ヒマス、就キマシテハ、御承知ノコトト思ヒマスガ秘密會ニ入リマスガ、議員、國務大臣、議事ニ關係アル政府委員及ビ事務ヲ掌ル者以外ノ御退場ヲ、此ノ際御願ヒ致シマス
午後一時五十七分秘密會ニ移ル

午後三時三十八分秘密會ヲ終ル
○委員長(子爵秋元春朝君) 之ヲ以テ秘密會ヲ閉ヂマス、通信省關係ノ三案一括シテ議題ニ供シマシテ其ノ質疑應答ヲ願ヒタイト思ヒマスガ、御異議アリマセヌカ、御異議ナシト認メテ左様取計ラヒマス、ドウカ御質疑ノアル方ハ御發言ヲ願ヒマス

○男爵久保田敬一君 船舶ノ建造ト云フコトガ今非常ニ大切ナコトハ、通信大臣ノ御説明ヲ俟ツ迄モナク能ク承知シテ居ルノデアリマスガ、此ノ木造船ヲ、鋼船ヲ造ル以外ニ木造船ヲ多量造ラナケレバナライコトハ申ス迄モナイノデアリマシテ、之ニハ色々要素ガアルト思ヒマスガ、何ニシテモ木造船ヲ造ルニハ木材ヲ餘計確保シナケレバナラヌト思ヒマス、ソレニ對シテハ、木材ノ使用ノ規正トカ、何トカ云フコトモ問題ニナルト思ヒマス、第一ニ木材ノ増産ト云フコトヲ主眼ニシナケレバナラヌト思フノデアリマス、是ハ私ハ專門家デアリマセヌノデ、ハッキリシタコトハ分ライノデアリマスガ、世間ノ噂ニ依リマス、木材ノ増産ト云フコトガ、餘リ好結果デナイト云フヤウナコトヲ聞イテ居ルノデアリマス、勿論此ノ木材ノコトニ對シテハ、農林省ノ主管デアラウト思ヒマスガ、今日日本ノ木材ヲ何ニ使フカト云フト、此ノ木造船ヲタリニ使フコトガ最モ其ノ量カラ言ツテモ、質カラ言ツテモ、良イモノヲ餘計使ハナケレバナラヌト思フノデアリマシテ、通信省ニ於テハ、木材ノ増産ト云フコトニ付テハ、非常ニ關心ヲ御持チニナツテ居ラレラウト思ヒマスガ、其ノ只今ノ木材ノ増産ノ狀況デアルトカ、又ハ其ノ方法等ニ付テ通信當局ノ御意見ヲ承リタイト思ヒマス

○國務大臣(寺島健君) 御話ノ通り、木造船ノ主要ナモノハ木材デアリマスガ、此ノ木材ガ大體ニ於テ、百「トシ」ノ船ヲ造ルノニハ、百「トシ」、言換ヘレバ約千石ノ木材ガ要ルノデアリマス、斯様ナ風デアリマスルノデ、是ノ確保ト云フコトハ絶対ニ必要ナンデアリマス、就キマシテハ、木材ノ増産ニ付キマシテハ、是ハ御説ノ通り農林省ノ管理スル所デアリマスガ、木造船用ノ木材ニ付キマシテハ、優先的ニ、又其ノ素質ガ一般ノ材ナラバ宜イト云フ譯ニハ参リマセス、質モ寸法等ニ付テモ、特殊扱ヒサルベキモノデアリマシテ、是ノ必要ナ計畫ハ、政府トシテ確保スルコトニ決ッテ居リマス、實ハ本日モ此ノ點ニ付キマシテ、閣僚ト話合ッテ決ッテ居リマシテ、農林省關係ニ於テモ、是等ノ點ヲ考慮シテ、來年度ノ木材ノ生産ト云フコトニ付キマシテハ、十全ノ計畫ヒラ致ス、多分此ノ方針等ニ付キマシテハ、今明日中ニ發表サレルモノト思ヒマスガ、増産方法ハ國有林モウント伐ル、倍額ヲ伐ル、其ノ他出來ルダケノ方法ニ於テ、從來ノ木材ノ產出ニ困難シタル諸種ノ事情ヲ改善致シマシテ、又地方長官ニ對シテ生産ト供出ト云フコトノ行政的責任ヲ持タシメテヤラウ、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居ル譯デアリマス、丁度米ノ供出ヲヤッタ如ク、木材ノ供出ヲヤツテ行カウ、從來ハ全國ノ木材ノ地方ニアル木材會社ト云フモノハ、是ハ縣外ニ移出サレルダケノ木材ヲ他ニ供給スルト云フ仕組デアッテ、各地方ニテツ所ノ中間者、或ハ縣木會社ト云フモノハ、是ハ木材ガ、地區々々需要スルモノト、縣外ニ移出スルモノト云フヤウナ風ニ仕組マレテ居ッタノデアリマス、行政的ニ地方長官ガ、之ヲ

木材ノ供出ト云フコトニ、行政的責任ヲ以テヤツテ行カウ、斯ウ云フ風ニヤツテ、確保ヲ期シテ行キタイ、斯ウ云フ風ニナツテ居ルノデアリマス、從ッテ此ノ中ノ主要ナル所ノ木造船ニ使用スベキ木材ニ付キマシテモ、優先的ニ之ヲ確保シテ行キタイト考ヘテ居リマス

○委員長(子爵秋元春朝君) 今ノニ關聯シテ御尋スルノデスカレドモ、日光ノ東照宮ノ參道ノ杉トカ、國道ノ兩側ニアル松ノ木、ア、云フモノヲ伐ッテ直グ船材ニナリマスカ、ドンナモノデスカ

○男爵久保田敬一君 今ノ御話デ能ク分リマシタガ、今回ノ總理大臣ノ權限ノ強化ト申シマスガ、各大臣ノ權限ノ強化ト申シマスガ、造船モ其ノ一項目ニナツテ居リマスガ、一元的ノ行政ヲヤラウト云フヤウナコトニナツテ居ルト承知シテ居リマスガ、此ノ造船ニ對スル所ノ木材ノ如キハ遞信省ガ非常ナ關心ヲ持タナケレバナライノデアリマスカラ、是等ニ對シテモ遞信大臣ガ十分ナル發言權ヲ御持チニナルヤウニシナケレバ、其ノ結果ガウマク行カナイノデハナイカト思ッテ居ルノデアリマシテ、木材ガ少ナイ爲ニ、或ハ只今御話ノ官有林ヲ伐ルトカ、或ハ甚シイノニナツテハ日光ノ杉迄モ伐ラウト云フヤウナコトヲ考ヘテ居ラレルノデアリマスケレドモ、私等ノ承ッテ所ニ依リマス、ソシナコトヲスル以前ニ只今御話ノ木材ノ供出トカ何トカ云フコトノ方法ノ改善ニ依ッテ、モット多量ナ木材ガ十分ニ出ル方法ガアルノヲ、ソレヲ今迄氣ガ付カナカッタト申シマスガ、等閑ニ附シタト申シマスガ、ソレガ餘リ好イ成績デナカッタヤウニ承ッタノデアリマシテ、誠ニ日本ノ造船ノ爲ニ遺憾ニ思ッタノデアリマス、只今御話ノヤウナサウ云フ話ガ出來上ガレバ非常ニ結構ナコトト思フノデアリマス、今後ニ於テモ遞信大臣ニ於テ十分ナルソレニ對シテ御發言權ヲ御持チニナルヤウニ御取計ラヒニナラムコトヲ希望致シマス

○國務大臣(寺島健君) ソレハナルモノデアリマス、今日ニ於キマシテハ、木材デ直グ造船ニ適スルノハ樺、檜、檜モアルケレドモ、今日ニ於テハ杉モ相當ニ使ヒマスケレドモ、松ハ又重要ナ部分ニモ使ッテ居リマス次第デアリマス、ソレデ色々ナ方面ニ於キマシテ此ノ際木材ノ生産ヲ増シテ行キタイ、ソレハ所謂冬木ト申シマスガ、冬ノ木等ガ山奥ニハ幾ラデモマダ澤山アルノデス、山奥ノヲ急ニ出セト云ッテモ、ソレハ山道ヲ開イタリ、設備シテ行カナケレバ出來ナイト云フヤウナ場合モアル、是ハ出來ルダケ冬木ヲ持ッテ行キマスガ、其ノ他ノ場所ニ於テ只今御話ノヤウナモノデモ全部坊主ニ伐ッテシマフノデハナクテ、間伐ト云フ一本置キデモ、三本置キデモ伐ッテ行キヤウナ方策モ同時ニ考ヘテ行キタイト思ヒマス、之ニ付キマシテハ只今久保田サンノ御話ガアリマシタヤウナ、遞信省ニ於テ木造船ニ於ケル木材ニ付テハ十分ノ發言權ヲ得、又必要ナル法規ノ適用ヲ設ケテモ確保スル手段ヲ講ジテ行キタイト思ッテ居リマス

○子爵秋田重季君 是ハ專門家ノ方カラ伺ヒタイノデスガ、昨年宮崎縣ニ私旅行シタノデゴザイマスガ、宮崎縣ニハ非常ニ立派ナ杉ノ森林ガ極ク汽車カラ手近カナ所ニアルノデス、アスコノ土地ノ人ニ聞イテ見マスト、此處ノ杉ハ非常ニ柔軟ナ杉デ、サウシテハ特ニ船舶用ノ木材トシテ非常ニ適シタ良好ナ木材デ、專ラ船ノ方ニ使ハレテ居

ル杉デアル、斯ウ云フ話ヲ聞カサレタノデアリマスガ、非常ニ立派ナ杉ノ森林ガアルノデス、サウ云フコトカラ考ヘテ見マシテ、唯杉ダカラシテ造船用ノ木材ニナルノダト云フヤウナコトハ、チヨット私ハ考ヘラレナイヤウニ思ッタノデアリマス、デスカラ、特殊ノ木材デナケレバ造船用ノ木材ニハナラヌノデヤナイカト思フ、唯木材ヲ持ッテ來レバ直グ船ヲ造レルノダト云フヤウナコトハ、チヨット考ヘラレナイノデヤナイカト私ハ思フノデアリマス、私ハ專門家デヤアリマセスカラ、一向分リマセスデスカレドモ、サウ云フ特殊ノ造船用ノ杉トシテハ立派ナ杉ガアル、サウシテ其處ノ杉ハ他ノ物ニ使ハレナイデ、專ラ造船用ニ使ハレテ居ル、斯ウ云フ話ヲ聞イタノデゴザイマスガ、サウ云フコトカラ申シマス、只今申上ゲタ通り、唯木材ダカラ船ガ造レルノダト云フ素人考ヘノヤウナ風ニハ參ラヌノデヤナイカト思フノデスガ、此ノ點ハ私ハ專門家デヤナイノデスカラ、ドナタカ專門ノ方ニ伺ッテ見タイト思フノデス

○國務大臣(寺島健君) 今仰シヤッタ宮崎縣アタリハ、全國ノ中デモ最モ木材ニ對スル立地條件ガ良好ナ所デアリマスノデ、此ノ方面ニモ木造船ノ新シイ造船所ヲ作ル豫定ニシテ居ル譯デアリマス、木材ニ付キマシテモ、是ハドツチガ良イカト云フナラバ、樺ガ一番良イト云フヤウナ點ハアリマスケレドモ、是ハ先程申上ゲマシタヤウニ松材モ使ッテ居リマス、今日デハ外板ニハ杉モ十分利用シテ行ケルノデアリマス、尙從來ハ特殊ナ木バカリデ、堅木バカリデ造ルト云フヤウナコトヲスレバ三十年モ保ツト云ッテ、現在建

第四部第九類 郵便年金法中改正法律案特別委員會議事速記錄第二號 昭和十八年二月二日 貴族院

造後三十年以上モ経テ未ダ運航シテ居ル木造船モ、私ハ過日現地ニ於テ見テ來タノデアリマシテ、サウシテ其ノ造船所ニ於テ非常ニ誇リシテ居リマシタ、併シ今日デハサウ云フツツカシイ資材ヲ與ヘテ少數造テ長持ちサセルト云フヨリハ、船舶ノ安全ニ差支ナク航行ガ出來ルト云フ範圍ニ於テハ出來ルダケ多量ニ造リタイ、斯ウ云フノデ、其ノ建造ノ圖面等モ海務院ノ方デ調節シテ、斯ウ云フ材木ヲ持ッテ行ケバ斯ウ云フ風ニ造レト云フ方策ヲ定メテ計畫的ニ造船ヲヤラセテ居リマス、大體御趣意ニ副フヤウニナルト思フノデアリマス、尙詳シイ専門ノ問題ハ政府委員ノ方カラ申上グルコトニ致シマス

○子爵秋田重季君 今ノ大臣ノ御話ノ通りデ、兎ニ角要スルニ船腹ノ量ガ必要ナノデゴザイマスカラ、サウ木材ノ如何ヲ問ウテ居ル今日デモナイダラウト思ヒマスケレドモ、宮崎アタリヲ廻ッテ見マスケルト、杉ノ立派ナ森林ガズットアリマシテ、アスコノ杉ヲ使ッタナラバ、相當ノ船腹ガ出來ルノデヤナイカト思フノデアリマスケレドモ、是ハ多ク民間ノ森林ヲシイヤウニ聞イテ居リマシタノデ、勢ヒサウ云フ民間ノ森林カラ出ストナルト、價格ノ點ナドモ非常ニ考慮シナケレバナラスト云フヤウナコトニナルト思ヒマスガ、併シマア政府デ以テヤルトナレバ、其ノ價格ノ點デ折り合ハナケレバ、勢ヒ強制執行ト云フヤウナ點モアルノデヤナイカト思ヒマスケレドモ、日本ノ木材ト云フモノハ、未ダ〳〵木造船ヲ造ッテ位無クナッテシマフト云フヤウナ心配ハ、恐ラク私ハナイト思ッテ居ルノデアリマス、デスカラサウ云フ地點々ニ造船所ヲ造ラレテ、サウ

シテ簡單ニ早ク船舶ヲ造ラレルト云フコトガ、最モ望マシイノデヤナイカト考ヘルノデスガ、今ノ大臣ノ御話デモ、サウ云フヤウナ趣意ニ依ッテ爲サレルト云フヤウナ御話デゴザイマスカラ、ドウゾ其ノ點ヲ御考慮ッテ、一日モ早ク船舶ヲ澤山増加セラレムコトヲ希望スル次第デアリマス

○男爵久保田敬一君 只今船舶ハ大部分徵用サレテ居ルト思ヒマスガ、其ノ外ニモ色々官デ以テ備船サレテ居ルノモアルト思ヒマスガ、備船料ノコトニ付テハ、前議會ニ於テモ問題ニナリマシテ、備船料ガ非常ニ適正デナイカラシテ、之ヲ適正化シナケレバナラスト云フ議論ガアツテ、遞信當局モ是ハ相當考慮スルト云フヤウナコトヲ申サレタノデアリマスガ、其ノ後ノ結果ハドウ云フ風ニナッテ居リマスルカ

○國務大臣(寺島健君) 只今御尋ノ備船料ニ付キマシテハ、久保田男爵ノ御話ノ如ク、海務院當局ニ於テ十分檢討ヲ加ヘマシテ、主トシテ陸海軍ノ徵用ノ備船料ト、一般ノ運營會ノ船ノ使用料ト云フヤウナモノトノ調節ヲ圖リマシテ、改善サレテ居リマス、其ノ詳細ニ付キマシテハ、政府委員カラ御説明申上ゲマス

○政府委員(安田文助君) 只今久保田委員カラノ御質問ノ備船料ニ付キマシテハ、仰セノ通り、在來實施セラレテ居リマシタモノハ、支那事變以後ニ於キマシテ、當時偶々業者ニ於テ自肅致シテ決メテ居リマシタモノヲ、其ノ儘例ノ九・一八ニ依ッテ停止セラレテ、ソレガズツ續イテ居ッタノデアリマス、ソレヲ計畫造船ノ實施、サウ云フモノノ進捗ニ連レマシテ、此ノ儘デハ到底業界ニ於ケル經營其ノ他ニ及ス所ノ影響モ適當

ヲ缺クト云フ事情ニ依リマシテ、一昨年来引續イテ之ガ原價計算ニ依ル所ノ適正ナル價格ヲ色々調査シテ發見シヨウ、斯ウ云フヤウナ方針ヲ以チマシテ實ハヤッテ參タノデアリマス、ソレデソレハ大體昭和十五年ニ於キマスル所ノ狀況ヲ中心ト致シマシテ、船費、店費、サウ云フ方面ヲ緩和致シマシタ、ソレカラ又船價ニ付キマシテハ昭和十二年末以降ト、ソレ以前トノ關係ニ於キマシテ、船價ノ差異ガ甚シイノデ、是等モ勘案ノ事項トシテ採リ入レマシタ、斯ウ云フヤウナ事項ヲ一ツ〳〵ノ船舶ノ原價ニ付テ勘案スルコトハ容易デアリマセヌノデ、大體船舶別、トシ數別、斯ウ云フモノニ依ル所ノ船舶ノ「ブロック」ヲ作リマシテ、級ヲ作リマシテ、ソレニ基キ船價ノ平均價額ト云フモノヲ求メマシテ、サウシテ其ノ船價ノ平均價額ニ對シテ減價償却、利息、サウ云フモノヲ決メマシテ、ソレニ先程申上ゲマシタ所ノ船費、店費ノ關係ヲ、十五年ヲ基トシテ決メマシタモノヲ合計致シマシテ、尙一定ノ利潤ト云フモノヲモ考慮致シマシテ、實ハ昨年ノ舊曆末ニ之ヲ公定致シマシテ、告示ヲ致シタノデアリマス、ソレデ一般ノ汽船ニ關スル關係ハサウ云フヤウニ致シマシテ、大體適正ナル結果ヲ得タト考ヘテ居リマス、併シナガラ今後諸材料、ソレカラ諸費用等ニ依リマシテ、船舶自體ノ價額ノ昂騰竝ニ經營ノ費用等ノ昂騰等モ、今後ハ上昇ノ途ヲ辿リナイトハ斷言致シ兼ねマスルノデ、船費ノ割増ト云フコトニ付キマシテハ、今後ノ事情ニ依リ、時期ヲ捉ヘマシテ、其ノ割増ト云フモノナドモ、其ノ都度考慮シテ行キタイ、是ガ大體ノ方針デアリマス、但シ機帆船ニ付キマシテハ、

マダ備船料ノ公定ト云フモノハ目下調査中デアリマシテ決メテ居リマセヌ

○男爵久保田敬一君 只今ノ御話デ、非常ニ結構ナコトト思ヒマスガ、申ス迄モナク只今ノ船舶ハ、軍用ニ徵用サレタモノハ勿論、運營會ニ依ッテ備船サレタモノモ、殆ド強制的ニ徵用サレルノデアリマシテ、船主ノ方デハ如何ナル犠牲ヲ忍ンデモ、之ニ應ジテ居ルノデアリマスカラシテ、只今遞信當局ノ御話ニナリマシタヤウニ、其ノ都度都度適正ナル所ノ備船料ヲ御決メニナルコトハ非常ニ望マシイコトデアリ、又船主ノ方トシテモ、非常ニ満足スルト思フノデアリマス、尙一點伺ヒタイト思ヒマスルノハ、此ノ船員ノ優遇ノ問題デアリマスルガ、勿論只今船員ハ非常ニ不足ヲ告ゲテ居リマシテ、此ノ不足ヲ補充スル意味カラ致シマシテモ、優遇シナケレバナラスノデアリマスガ、ソレ以外ニ尙只今ノ船員ハ非常ナル軍用ニ當ッテ居ル者ハ勿論其ノ以外ニ於テモ非常ナル危險ナル所ノ航海ヲ國家目的ノ爲ニヤッテ居ルノデアリマシテ、殆ド船員ト軍艦ノ水兵ト異ラナイヤウナ有様デアアルノデアリマシテ、之ニ對シマシテハ此ノ色々ナ國家的ニ優遇ヲ與ヘルコトガ必要ダラウト思フノデアリマス、物質上ノ待遇ノミナラズ、其ノ他ノ船員ニ對スル所ノ優遇トカ、又ハ殉職者竝ニ其ノ遺族ニ對スル所ノ色々ナ考慮トカ云フヤウナコトヲ講ジテ、船員モ甘ンジテ命ヲ國ニ捧グルヤウナ精神ヲ持タスト同時ニ、國トシテモ此ノ船員ノ非常ナ努力ニ對シテ之ニ報ユルノ途ヲ講ジナケレバナラスト思フノデアリマス、遞信大臣ノ御意見ヲ伺ヒタイ

○國務大臣(寺島健君) 只今久保田男爵カ

ラ船員ニ對スル適切ナル御意見ヲ承リマシ
タ、政府ト致シマシテモ全ク同感デゴザイ
マシテ、今日船員ノ日夜ヲ分タザル危險ナ
ル海面ニ於ケル努力ニ付キマシテハ、之ニ
處スルノ各人ノ覺悟ヲ一層確立シ、又其ノ
職務ノ事項ヲ規正シテ、完全ニ任務ヲ遂行
サセルコトヲ教育致シマス共ニ、是等ノ優
遇ナリ、船員ヲシテ後顧ノ憂ヒナク安ンジテ
死所ヲ得セシメルト云フ覺悟ヲ持タシメル
爲ニハ、物質的ノ諸種ノ方策バカリデハナ
ク、精神的ノ待遇ヲ與ヘテ行カナケレ
バナラスト云フ點ニ付キマシテ全ク御同
感デアリマス、政府ハ過日ノ閣議ニ於
キマシテ、此ノ點ヲ審議致シマシテ、五
ツノ事項ヲ決定致シマシタ、ソレハ陸
海軍ノ指示ヲ受ケテ運航スル船舶ノ乗組
員ハ、銓衡ノ上ニテ陸海軍ノ軍屬トスルコト
デアリマス、是ニハ陸海軍ノ徵用船ハ當然今
日其ノ乗組員ヲ軍屬トサレテ居リマスノデ、
之ヲ含マナイ船ニ於テ軍ノ指示ヲ受ケテ運航
スル船舶乗組員ヲ銓衡ノ上、軍屬ト云フ身分
ヲ得シムルノデアリマシテ、其ノ服務ガ一層
肅正伸張セラレコトトナリマス共ニ、
戰爭危險ニ依ル殉職等ニ付キマシテハ、銓衡
ノ上、靖國神社ニ合祀ノ恩典ニ浴スルコト
トナル次第デアリマス、是ガ是カラ船員ノ最
モ希望シテ居ル所ノ施設ト存ズルノデアリマ
ス、第二ハ船員ノ功績ニ應ジマシテ、論功行
賞ノ處置ヲ講ズルコトト致スノデアリマス、
是ハ曩ニ申シマシタ、第一ニ處斷セラレル軍
屬ニナルト云フコトニ寧ロ必然的ニ其ノ恩
典ニ浴スルコトトナル次第デアリマシテ、
其ノ他船員ニ對スル表彰等ノコトモ勅令ニ
依リ、勤勞顯功章ノ受賞者トナリ得ル次第
デアリマス、進シテ尙此ノ點ニ付キマシテ

ハ一層深く考慮ヲ加ヘテ行キタイト存ジテ
居ルノデアリマス、其ノ三ハ、陸海軍徵用
船員及戰時海運管理令ニ依ル徵用船員並ニ
政府、是ハ府縣ヲ含ミマスルガ、府縣ノ命
令ニ依ッテ外海ノ離島間ノ航海ヲ爲スヤウ
ナ船ヲ含ムノデアリマス、其ノ政府若シク
ハ府縣ノ命令、或ハ計畫ニ基イテ運航スル
船舶、又ハ政府ノ使用スル、徵用デアリマ
ス、使用スル船舶ノ乗組員ノ戰爭中ノ殉職
者ニ付キマシテハ公葬ヲ行フト云フコトデ
アリマス、此ノ公葬ハ各海務局長ヲシテ管
區別ニ海務局ニ於テ合同葬ヲ行ハシムル考
デアリマス、必要ニ應ジマシテハ中央ニ於
テ通信葬ヲ行フ考デアリマス、其ノ四ハ、
船員並ニ其ノ遺家族ニ對シ適當ナル援護扶
助ヲ行ヒ得ルヤウニ處置致スト云フコトデ
アリマスガ、之ニ付キマシテハ既ニ此ノ目
的ノ爲ニ寄附金ノ申出ヲ受ケテ居リ、既ニ
寄附金ヲ受理シテ居ル所モアル次第デアリ
マス、之ヲ中核トシテ此ノ際適當ナル寄附
行爲ヲ起シテ財團法人、船員援護會トモ言
フベキモノヲ作りマシテ、之等ニ依リマシ
テ船員並ニ其ノ遺家族ノ援護扶助ニ遺憾ナ
キヲ期シタイ考デアリマス、其ノ五ハ、町
内會、隣保班等ガ船員遺家族ニ對シ、援護
扶助ヲ實施スルヤウ處置スルコト云フコトデ
アリマス、此ノ五項目ニ付キマシテハ、著
著實行ニ取掛シテ居ルノデアリマス、又現在
徵用船員ガ戰爭危險ニ依リマシテ死亡シ、
又ハ行方不明トナリマシタ場合ニハ、官ヨ
リ市町村長ヲ通知マシテ、其ノ遺家族ニ對
シテ通知ヲ致スコトトシテ居リマス、此ノ
際市町村ニ於テハ是ガ遺家族ニ對シテ適當
ナル慰藉援護ヲナスヤウ、處置ヲ致ス次第
デアリマス、是等ノ處置ニ付キマシテ、海

軍ノ命ヲ受ケテ危險ナル海面ニ策動スル、
運航スル所ノ漁船ノ船員ニ付テモ、之ヲ準
用致スコトトスルノデアリマス、次ニ被徵
用船員ニ對スル一時金賜金及ビ扶助ニ付テ
御說明致シマス、戰時海運管理令ノ定メマ
ス所ニ依リ、船舶運管會ノ運航スル船舶ノ
乗組職務ニ從事中、戰爭危險ニ依ッテ遭難
シ、ソレガ爲、死亡又ハ傷痍疾病ニ罹リマ
シタ時ハ、一時金ヲ支給スルコトトナッテ居
リマス、尙戰時海運管理令ニ依ラザル船舶
ノ乗組員ニ付キマシテハ、死亡手當ノ大部
分ハ政府ニ於テ補償スルコトトナッテ居リ
マス、次ニ船員徵用令及ビ戰時海運管理令
ニ依リ徵用セラレタル船員ガ職務上ノ傷痍
疾病ニ依ッテ徵用ヲ解除セラレ、又ハ死亡シ
マシタ後ニ於キマシテ、本人又ハ其ノ遺家
族ガ生活スルコトガ困難ナ場合ハ、軍事扶
助法、或ハ國民徵用令ト略、同一ノ扶助ヲ爲
スコトトナッテ居リマス、以上ヲ以テ大體
ノ御説明ヲ終リマス

○坂野鉄次郎君 極ク簡單デスガ、年金ノ
事ニ付テ承リタイノデアリマス、此ノ改正
法律案提出ノ理由デゴザイマス、現下ノ情
勢ニ鑑ミト云フコトガ書イテアリマスガ、
是ハドンナコトデアルカ知リマセヌガ、低
物價政策ヲ御採リニナッテ居リマスガ、ナカ
ナカサウ云フモノハ效果ガアリマセヌ、從ッ
テ二千四百圓ヲ三千六百圓位ニオ上ゲニナ
ルト云フコトハ、是ハ程度ノ問題デアリマ
スケレドモ、モウ一ツ奮發爲スッテ六千圓位
迄ニオ上ゲニナルコトガ必要デハアルマイ
カ、少クトモ四千八百圓位ニナサラスト、
此ノ年金ヲ頂戴シテ見テモ、餘リ安心シテ
生活ヲスルト云フコトガ出來ナイノデアリ
マス、是ハ程度ノ問題デアリマスガ、三千
六百圓デオ止メニナリマシタ理由ハ、何處
ニアルノデアリマセウカ、ソレヲ一ツ拜聽
致シタイト思ヒマス

○國務大臣(寺島健君) 御尋ノ郵便年金ノ
最高額ヲ二千四百圓ヲ三千六百圓ニ、所謂
五割増ニ致シタ理由デアリマス、今御述ニ
ナリマシタ如ク、之ヲ倍位ニ此ノ際シタラ
ドウカト云フコトモ考ヘテハ見タノデアリ
マスガ、大正十五年ニ制定セラレマシタ時
ニ於キマシテハ、一面ニハ老後ノ生活ト云
フコトデアリマス爲ニ、官吏ノ恩給年額等
モ加味致シマシテ、今日ニ於キマシテハ、
高等官一等デ退官シタ人ノ恩給額等モ考ヘ
マスレバ、サウハ其ノ點ヲ今御説ノヤウ
ナ多額ニスルコトモドウカ、斯ウ云フノ
ト、現下ノ狀態デ經濟狀勢ガ變ッテ、大正
十五年ニ設定シタ國民厚生ト云フコトト、今
日ノ數字ニ於テ見マスレバ、モット上ダ
方ガ適當デアル、一面然ラバ此ノ被保險者ガ
ドウ云フ程度ニ今日ノ二千四百圓ナル最高
額ニ達シテ居ルカ、是ハ漸次殖エツ、アル
ノデアリマスガ、加入者ノ一割程度デアリ
マス、斯様ナ狀況カラ見マシテ、此ノ際二
千四百圓ヲ三千六百圓トスルコトガ、最モ
實際ニ適合シタコトデアハナイカト考ヘマシ
テ、此ノ點ニ定メタ譯デアリマスガ、尙詳
細ソレ等ノ數字等ニ付テ御用ガアレバ、政
府委員カラ御答ヘ申上ダタイト思ヒマス

○坂野鉄次郎君 分リマシタ、是ハ再々變
ヘルコトニナルトイケナイデスカラ、一度
ニ少シ高クヤッテ置イテ勅令カ何カデ一時
御止メニナルトカ何カ、サウ云フ方法ヲ御
執リニナッテハドウデスカ、是ハ再々先ニ
物價ガ高クナルト上ゲルト云フコトハドウ
カト思ヒマスカラ、此ノ節ノヤウニ何デモ

通ル世ノ中ナラバ……通ラス世ノ中ニナツタ方困ルデスガ、思ヒ切ツテ高クシテ置イタ方宜イデヤナイカ、別ニ御遠慮ニナルコトハチツトモナイデヤナイカト思ヒマスガ、御遠慮ニナル所ガアルデスカ、保險會社トカ、銀行トカ云フコトニ付テ御遠慮ニナツテ居ル所ガアルノデスカ

○國務大臣(寺島健君) 御答へ申シマセガ、別ニ外ニ遠慮シタ譯デゴザイマセヌガ、是等ノ厚生施設等ノ點ニ付キマシテハ一般ノ保險業トカ何トカ云フコトノ調節モ無視スル譯ニハ行カヌノデアリマス、併シ私共ト致シマシテハ一々情勢ガ變テ法律案ヲ出サナケレバナラスト云フコトハ窮屈ナヤウナ感ジガ致シマス、場合ニ依テハ今度提案セラレテ居リマスルヤウナ戰時特例のナモノニ準據シテヤレルヤウニ戰時中ヤツタ方宜イカト思ッテ居リマスガ、是ハ今日迄法律決メラレテ居リマスカラ、今回ハ之ニ依ツタ次第デアリマス、尙此ノ點ニ付キマシテハ專門のニ政府委員カラ御答へ申上ゲテ宜シウゴザイマス

○政府委員(手島榮君) 大臣カラ大體ノ御話ガアリマシタノデ、特ニ數字的ニ申上ゲル點ハアリマセヌガ、保險金額ガ現在二千四百圓デアリマスガ、其ノ二千四百圓ト云フ最高ノ程度ノモノガドノ程度入ッテ居ルカ、十四年、十五年、十六年ト段々最高額ニ近イモノガ多クナツテ居リマスガ、其ノ割合ヲ申シマス、大體三厘カ新契約ニ對スル五厘程度ノ間デアリマシテ、二千圓以上ノ契約ト云フモノハ極ク僅カナモノデアリマス、從ヒマシテ最高額ニ入ル人ハ極ク少數ノ資産ノアル人ニ限ラレルヤウナコトニナリマス、之ヲ三千六百圓ニシマシタ程

度デマダ今ノ所ハ宜イデヤナイカ、ソレガ非常ニ大キナ額ニナリマス、却テ年金ニ依ッテマア安逸ヲ貪ルト申シマス、サウ云フヤウナ傾向ヲ助長シテモイケナイト云フノデ、是ハ經濟狀態ノ變遷ニ應ジテ漸次改訂シタ方宜クハナイカト云フノデ三千六百圓程度ニ止メタ次第デアリマス

○坂野鉄次郎君 私ハ同意ハ致シマセヌガ、了承致シマシタ

○秋田三一君 參考資料ニ依リマシテ、最近年金ノ新契約ノ件數竝ニ金額ニ於キマシテ、急激ニ増加ヲ來シテ居ルコトヲ承知致シタノデアリマスガ、是ハ最近ノ經濟情勢ニ依ルコトト思ヒマスガ、又一面當局ノ努力、就中熱心ナ勸誘ガ與ッテ大ナル力ガアルコトト思フノデアリマス、極ク最近ニ於キマシテハ貯蓄増強ノ目的ガ、本來ノ目的デアル所ノ、國民ノ大多數ヲ占メテ居ル中産階級以下ノ厚生施設ト云フ目的以外ニ進ミマシテ、資産階級ニ向ッテモ勸誘ヲヤツテ居ルト云フヤウナ結果ガアルノデハナイカト思フノデアリマスガ、此ノ現在ノ新契約者ヲ職業別ニ見テドウ云フ風ニナルノデアリマセウカ、例ヘバ官吏、會社員等ノ俸給者トカ、或ハ又中小商工業者トカ、又ハ職工等ノ労働者等ニ大別シテ見マシテドウ云フ結果ニナツテ居リマスガ、分レバ其ノ點ヲ御示ヲ願ヒタイト思ヒマス、又是等新契約者ガ自覺シテ進シデ之ニ入ッテ居ルモノデアルカ、或ハ又相當根強ク勸誘ヲ受ケテ斯ウ云フ數字ニナツテ居ルノデアルカ、其ノ邊ノ狀況モ序ニ知ラシテ戴キタイト思ヒマス

○政府委員(手島榮君) 職業別ノ統計ガアリマスレバ後御答スルコトニ致シマシテ、初メニ御話ガアリマシタ郵便年金ガ中産階級以上ノ人ニ相當勸メテ居ル結果デハナイカト云フ御話デアリマシタガ、此ノ點郵便年金ノ性質ガ簡易保險トハ非常ニ違ヒマシテ、創始當時カラ郵便年金ノ加入者ハ、大體中産階級以上ノ人ヲ對象ニシテ出來テ居ルノデアリマス、從ヒマシテ郵便年金ノ加入者ハ、其ノ意味ニ於キマシテハ簡易保險ノ加入者ト層ヲ異ニ致シテ居リマス、尙最近ニ於キマス加入者ノ殖エマシタ實際ノ原因ハ、時局ノ關係カラ非常ニ勸獎致シテ居リマスルノデ、其ノ結果急激ニ増加ヲ致シタモノト信ジテ居リマス、職業別ノ内容ハ、アリマスレバ後説明致シマス

○秋田三一君 只今政府委員ノ御話デハ、郵便年金ハ中産階級以上ノ者ヲ目的トシテ居ルト云フ御話デアリマスガ、私ハ今日政府カラ配付サレタ「郵便年金事業ノ現況」ト云フ參考資料ノ第二章ニ「郵便年金制度ノ内容」ト云フ所ヲ今朝讀シタノデアリマスガ、最初ニ「郵便年金ハ國民ノ大多數ヲ占メル中産階級以下ノ者ヲ對象トスル保險ノ一種デアアル」ト、斯ウ書イテアリマスガ、是ハドウデアリマスカ

○政府委員(田倉八郎君) 先程御尋ニナリマシタ年金ノ職業別ノ割合ヲ申上ゲタイト思ヒマス、一番多イノハ工業關係ノ三十三「パーセント」一、ソレカラ商業關係ノ二十七「パーセント」五三、其ノ次ガ公務從業「二一「パーセント」五三、ソレカラ無職六「パーセント」九一、其ノ次ガ農業「五「パーセント」九、アト水産業、鑛業等ガ何レモ一「パーセント」以下デゴザイマス

○政府委員(手島榮君) 私ガ前ニ申上ゲマシタノハ、多少簡易保險ト對照的ニ申上ゲマシタノデ誤解ヲ招イタカト思ヒマスガ、簡易保險ハ明瞭ニ中産階級以下ト云フモノヲ相手ニスルト云フ社會政策的性質ノ保險デアルト云フノデ當時カラ創設サレタノデアリマス、大正十五年ニ郵便年金ガ定メラレマシタ當時ノ昵ヒ所ハ、只今最高制限デモ「三」ト話ガ出マシタヤウニ最高額月額二百圓ト云フ年金ヲ取ルコトガ最高ニナツテ居リマスガ、年齢ニ依リマシテハ數萬圓ノ金ヲ拂込マナケレバ年二千四百圓、月額二百圓ノ年金ハ受取レナイ狀態デ、從ヒマシテ當時ノ考方ハ中産階級ハ勿論デアリマスガ、之ニ入ルモノハソレ以上ノモノモ、相當ノ資産家モ當然入ルヤウナ仕組ノモノヲ考ヘテ參ッタノデアリマス、其ノ後年金ノ種類ガ變リマシタト思ヒマスガ、或ハ賜年金ト云フヤウナモノガ殖エテ參リマシタ、非常ニ年金ガ大衆的ニ複雑ニナツテ參リマシタノデ、其ノ意味ヲ含メテ多分中産階級以下ノモノヲ對象トスル、國民全般ノ年金ト云フヤウナ意味デ斯ウ現レタモノト存ジテ居リマス、多少簡易保險ト昵ヒ所ガ違ッテ進歩シテ參リマシタノデ、説明ガ足ラナカッタト思ヒマスノデ一應御説明申上ゲマス

○秋田三一君 私モ先程カラノ御質問ト、今政府委員ノ御答辯トヲ併セマシテ、此ノ増額ハ寧ロモウ少シ思切ツテ上ゲタ方宜イデヤナイカト云フヤウナ氣持ガ致スノデアリマスガ、外ノ委員ノ方ノ御意見ヲ承リタイト思ヒマス

○男爵北大路信明君 郵便年金ハ逐次増加ノ傾向ヲ辿ッテ居ルト云フ御話ヲ承ッタノデアリマスガ、現在團體郵便年金ト云フモノガ會社等ニ行ハレテ居ルヤウデアリマスガ、是ノ加入ノ割合ハ、全郵便年金トノ割合ハ

ドウナッテ居リマス

○政府委員(田倉八郎君) 現在郵便年金ノ總テノ件數デ申シマス、百四萬七千件バカリアリマスルガ、其ノ内團體年金ノ件數ハ七萬三千餘ニナッテ居リマス、金額ニ付キマシテ、是ハ十七年十月ヲ押ヘテ居リマスルガ、年金額ニシマス、一億二千二百二十二萬圓ノ内、團體年金ノ金額ガ百九萬圓餘ニナッテ居リマス

○男爵北大路信明君 現在官吏方面ニハ恩給等ガアリマスガ、會社方面デハ大體ニ於キマシテ退職手當金トカ、斯ウ云フヤウナ風ニナッテ居ルノデゴザイマスガ、是等年金ヲ利用スルト云フコトガ、相當用ヒラレ得ルト思フノデゴザイマスガ、是等ニ對スル御所見ヲ伺ヒタイノデアリマス

○政府委員(田倉八郎君) 御意見御尤モデゴザイマシテ、私共モ出來得ルコトナラバ、サウ云フ會社ノ退職規定等ノ組織ノ中ニ、此ノ年金ト云フモノヲ編込シテ、利用シ得ル方法ガナイカト云フノデ、折角調査モ致シ、且勸誘モ致シテ居ルノデアリマス、團體年金ハ申上ゲル迄モナクサウ云フ組織ニ利用サレテ居ル譯デアリマスルガ、尙參考ノ爲ト思ヒマスケレドモ、最近中小商工業ノ轉業者ガ大分アルノデゴザイマスガ、ソレヲ更生金庫ノ方デ扱ッテ居ル譯デアリマスルガ、其ノ轉業者ニ對シテ、今迄ノ色々ナ設備、其ノ他ノ物ヲ買取ッテ、代金ヲヤル時ナンカモ、最近ニナリマシテ郵便年金ニ入ルコトヲ條件トシテ、其ノ金ヲ渡スト云ツヤウナ風ニ、兩者ノ交渉ガ纏リツ、アル、言換ヘマスレバ、一定ノ金ガ、國民ニ纏ツタ金ガ渡リマス時ニハ、出來得ル限り年金ニ入ルヤウナ風ニ、組織ノ中ニ編込シテ行クト云ツ

タ方針ハ、大變好イコトダト思ヒマシテ、折角努力中デゴザイマス

○委員長(子爵秋元春朝君) 如何ガデスカ、本日ハ大體此ノ程度デ止メテ置キマシテ、明日午前十時カラ開キタイト思ヒマスガ、如何ガデスカ、別ニ御異存モナイヤウデゴザイマスカ、此ノ程度ニ止メテ置キマス、本日ハ之ニテ散會致シマス、明日ハ午前十時カラ開キマス

午後四時三十四分散會

出席者左ノ如シ

委員長 子爵秋元 春朝君
副委員長 男爵久保田敬一君
委員 侯爵黒田 長禮君
伯爵大木 喜福君
子爵秋田 重季君
出淵 勝次君
男爵北大路信明君
坂野鉄次郎君
唐澤 俊樹君
田澤 義鋪君
磯野 庸幸君
秋田 三一君

國務大臣

逓信大臣 寺島 健君

政府委員

簡易保險局長 田倉 八郎君
海務院次長 松本 益吉君
海務院部長 安田 丈助君
海務院部長 新谷寅三郎君
同 渡邊 浩君
同 若林 清作君
同 中尾國次郎君
同 山田 良秀君
航空局長官 山田 良秀君

航空局長官 遠藤 毅君
同 仁村 俊君
同 横川 市平君

昭和十八年二月三日印刷

昭和十八年二月四日發行

貴族院事務局

印刷者 内閣印刷局